「誇りを持って働きなさい」

まずは筋肉質な組織に

プラウド

THE COMPANY

【東京】「仕事に誇りを持って働きなさい」―。プラウド（東京都千代田区）の石山光博社長（51）は、折に触れて社員にこう説く。この言葉の根底には「社員が自分の子供を入社させたいと思える会社にしたい」という強い願いが込められている。

同社は21世紀が幕を開けて間もない2000年5月に設立。保有する57両のうち1ﾄﾝ車が23両を占め、①ドライバー派遣②運送③EC（電子商取引）の発送代行―を柱に事業展開している。

「子供を入社させたいと思える会社に」と石山社長

「まずは筋肉質な組織にし、かつコンプライアンス（法令順守）を徹底する。その上で収益を上げられる会社にしたい」。14年3月期の売り上げは前期比で微増の11億円程度を見込む。当面は「何も慌てて事業を伸ばす必要はない」というスタンスで臨む考えだ。

ドライバーの派遣事業は1日に70人のドライバーがハンドルを握る。顧客の半数が運送会社で、残りは企業の役員送迎、健康診断用レントゲン車の運転など幅広いニーズに対応。スポットの仕事を請け負うケースは少ないという。

EC物流事業では10社と取引しており、「お客さんに合わせた現場づくり」を特長に挙げる。佐川急便（荒木秀夫社長、京都市南区）でセールスドライバーを振り出しに15年間勤めた経験を糧に、「宅配便を知っているアドバンテージ」を最大限に生かす。

先月1日には埼玉県川口市に新センターを開設し、通信販売のディースタイル（星合稔宜社長、埼玉県川口市）の業務を受託。次のステージとして見据えるのは、「東京23区をベースにした運送と倉庫をセットにしたビジネス」と話す。

（沢田　顕嗣）